

札幌国際 芸術祭 2020が本格始動!

札幌国際芸術祭とは?

国内外のアーティストが札幌に集結し、多彩な芸術作品を披露する催しです。市民が芸術に触れることで札幌の新たな魅力を発見し、街の活力につなげていくために、3年に1度開催。次回で第3回となります。

▲前回の芸術祭は「芸術祭ってなんだ?」をテーマに開催。企画の一つとして、市民の皆さんの手で大きな風呂敷を作り上げた

来年12月から約2カ月間行われるアートイベント「札幌国際芸術祭2020」。このページでは、その概要やイベントに携わるディレクターを紹介します。 [詳細](#) 国際芸術祭担当☎211-2314

開催期間 2020年12/19(土)~2021年2/14(日)

主な会場 芸術の森、市民交流プラザ、500メートル美術館、資料館、北海道立近代美術館 ほか

テーマ

オブ ルーツ アンド クラウス
Of Roots and Clouds:
ここで生きようとする
アイヌ語ではSinrit(根・ルーツ) / Niskur(雲)

大地に張る根(ルーツ)と大空に浮かぶ雲(クラウド)は、北海道・札幌の広大な自然や絶え間ない循環を表現するとともに、歴史や地理、文化のほか情報やネットワークといった意味も込められています。誰もがそれぞれの「ここ」で「生きようとする」とき、芸術をこの時代や環境を見つめ直すための視点としてどう活用できるかを考えます。

ここに注目

初の冬開催となる芸術祭

冬を生かした屋外での展示、北国の歴史や文化を題材にした企画など、札幌らしい芸術祭を目指します。

ここに注目

芸術祭の楽しみ方を提案

難しいと思われがちなアートの魅力を分かりやすく伝える役割を担うディレクターを新設しました。

3人のディレクターを紹介します!

統括ディレクター あまの たろう 天野 太郎氏 (写真左)

横浜市での芸術祭に携わった経験を生かし、芸術祭全体を監修するとともに、現代アートの企画を担当。

札幌国際芸術祭2020では、これまで以上にアートに親しんでいただけるような仕掛けや鑑賞プログラムを準備したいと思っています。3人のディレクターの個性と専門性を生かして、この街の魅力と文化芸術が共演する芸術祭をつくりあげますので、どうぞご期待ください。



企画ディレクター
アグニエシュカ・クビツカ=
ジェドシェツカ氏 (写真中央)

メディアアートの企画を担当。ポーランド在住で、同国で開催する国際的なアートイベントに長年携わっている。

コミュニケーション
デザインディレクター
たむら 田村 かのこ氏 (写真右)

アートの分野における通訳や翻訳の専門家。芸術祭と来場者をつなぐ役割を務める。

広告